

玉縄の街づくりに 地域と行政が手をたずさえ

4月1日(平成30年)の異動で、玉縄地域の行政全般を担う鎌倉市役所・玉縄支所の支所長が交代、障がい者福祉の部門に長年携わってきた今井伸行さんが着任、さっそく地域の最前線で新支所長の活動が始まりました。



**鎌倉市役所・玉縄支所
支所長に就任した**

今井 伸行さん

「フラワーセンターをはじめ、玉縄城や大船観音、鎌倉野菜の故郷である関谷の農地など、魅力ある資源が玉縄地域にはいっぱい。新たに開発された新興住宅街やマンション群の若い世代、それと古くからこの地で生活を営んできた方々との深い結びつき。これが玉縄の強さ、持ち味でしょうか」

玉縄の合言葉でもある地域の絆「玉縄の底力」を、感じ取った今井さんは「行政の務めは住民の福祉増進が基本。ただこの実現には行政だけでは不可能で、地域の皆さんと共に手を携えて玉縄の街づくりにも全力をあげていきたい」と強調することしきりでした。

支所長は玉縄の自治町内会連合会の理事会や総会などに参加して、地域と行政との接点を見いだしたり、また地域の声を行政に反映させるなど多くの役割を担っています。同様に、玉縄地区の社会福祉協議会では福祉、高齢者対策の視点から行政の支援を求める声に耳を傾けます。

玉縄には独自の組織として、「玉縄女性の会」が地区社協や福祉活動の主力として活躍します。さっそく、同会が定例的に開くテールームに招かれ、行政と地域の連帯を確認しました。



また、玉縄地域のコミュニティサイトであるマイタウン玉縄の運営会議メンバーとしても会議に出席(Ⓣ写真の右端)し、市からの適切な情報の提供をはじめ、アドバイスにも力を割いています。



「地域のネットワークを充実していくことは健全な地域づくりに役立ちます。マイタウン玉縄が地域の回覧板や情報発信の役割を進めていくことが地域活性化の一助になるのでは…」と訴えます。

玉縄には岡本のマンション建設予定跡地の活用計画など、行政のリードで解決が望まれる課題を抱えます。にわかに進展することが難しい側面もありますが、玉縄を活性化させよりよい街づくりに、行政と地域の連帯が一層増すことになりそう。



マイタウン玉縄の読者に向けて、このほど今井支所長から抱負を頂戴しました。以下はその全文です。

昭和60年市役所入庁

4月1日から玉縄支所に着任いたしました今井伸行(いまいのぶゆき)と申します。よろしく願いいたします。

まず初めに自己紹介させていただきます。私は、昭和36年に横浜市磯子区で生まれ、その後、小学生の時に父親の転勤で、名古屋、大阪に転校し、また横浜に帰ってきました。

昭和60年に鎌倉市役所に入庁し、20代の結婚当初は材木座に住んでいました。現在は、横須賀市に住んでおり、妻と娘2人と亀（メス）と暮らしております。

娘2人は既に成人し、社会人になっており、少し安心しているところです。

鎌倉市役所での初めての勤務先は、現在は廃止したレイウェル鎌倉で、30年ぶりに玉縄・大船地域の皆様のお世話になります。その後、障害福祉の仕事に8年間従事しましたが、そのこと以外では市役所内部の仕事が中心で、特に地域の方々に直接お世話になるは、昨年の深沢支所が初めてですので、何かと不勉強なところがあると思いますが、よろしく願いいたします。

地方自治 目的は住民の福祉

さて、近年、憲法改正について議論されていますが、今さら何を言っているかとお叱りを受けるかもしれませんが、地方自治について、憲法第92条で「地方自治の本旨の確保」が規定されています。

そのことに基づいて、地方自治法で地方自治の本旨が規定されており、制定以来70年が過ぎました。地方自治は、議会である立法機関と市長、教育委員会などの執行機関が中心となって、その役割を広く担っています。その目的は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施することにあります。その目的を達成するためには、行政だけでは無理で、地域の住民の皆様の方がなければ、成しえることはできません。

少子高齢化にも全力あげて

また、急激に進む少子高齢化については、私達行政職員はもとより、地域で様々な活動をなさっている皆様方のほうが身近な問題として感じていると思います。そこで、行政がしなければならないこと、またすべきことと、地域住民の皆様ができること、また地域住民の皆様方しかできないことがあると思います。

これからは、行政と地域住民の皆様方がより協力し合って、まちづくりを進めていく必要があると考えています。私自身、微力ではございますが、玉縄地域のまちづくりに尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(おわり)